

月刊 動労千葉

動労千葉結成10周年!

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

1989.3.23 No. 3000

日刊 動労千葉 3000号達成

全組合員・家族のみならず！ 全国の愛読者のみなさん！
本号をもって「日刊動労千葉」は三〇〇〇号をむかえました。
これはひとえに、全組合員の奮闘、家族のみなさんの協力、そして、全国で購読し続けて下さった闘う仲間のみなさんの熱い支援の賜物です。
紙面をかりまして、厚く御礼申し上げますとともに、これからも、「闘う動労千葉の機関紙」「全国の仲間への指針」とし

まして、なお一層の充実化を図っていく決意です。
分離・独立闘争から動労千葉十年の歴史の最前線を担う
一九七九年一月八日、「日刊動労千葉」はそのうぶ声を上げました。
激動の一九八〇年代を目前にして「闘うのか屈服するのか」この二者択

一が日本の労働者に突きつけられるなか、七八年動労全国大会で動労中央を革マルが牛耳り、「貨物安定宣言」「三里塚敵対」方針を、動労千葉地方本部をはじめ全国の良心的な組合員が反対するなか、組合民主主義を暴力と恫喝でふみにじり、まさにファッショ的恐怖政治で「動労」を変質・転向させていきました。同時に、その過程は「

闘う千葉」を暴力的に叩きつぶそうとしていくものでした。
まさに、その攻防の真只中で「日刊動労千葉」は、全組合員・家族、そして全国の仲間へ真実を伝える「武器」として誕生したのです。
以来、三〇〇〇号「日刊動労千葉」は発行されました。この「歴史」は、誰が正義であり、誰が不正義なのかを見事に暴ききつたものであります。すべての仲間のみならず、「日刊動労千葉」の役割はますます重要と

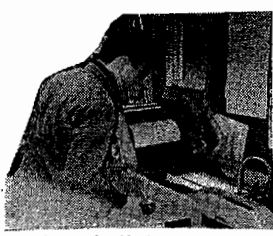
配布体制を強化し、日刊動労千葉をみんなが読もう！



動労千葉の朝は、「日刊」の発送で始まる。

闘いに密着した紙面づくりを 教宣部長 山田雄一

「日刊動労千葉」をご愛読下さっている仲間のみならず！ 大変ありがとうございます。
私が「日刊動労千葉」と出会ったのは、幕張支部青年部常任委員時代でした。当時、動労革マルとの組織攻防戦花やかりし頃であり、動労千葉にとって最も重要な出発点の時でした。
その「日刊」を組合員に配布するために何かいい方法がないものかと青年部で話し合い、日勤者が圧倒的多数であった幕張電車区の理を生かし、国労組合員も含めて、出勤してくる組合員に手渡すことにしました。
あれから十年、動労千葉は数々の闘いを積み上げ、十年前にわれわれが主張してきたことが圧倒的に正義であったことが一目瞭然となる時が到来し、ますます日刊の重要さは増しています。
この十年間、日刊は休むことなく発行され続けました。読者のみなさんが支えられてきたと同時に、歴代の編集委員の奮闘があったからこそだと思えます。私をはじめ、現在の編集委員もその奮闘を無駄にさせることなく、さらに「日刊」を良いものにするために、がんばる所存です。



現在の印刷機は2代目。「自前」の印刷体制だ。

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年!